

優秀賞（国土交通事務次官賞）

△作文（中学生）の部▽

『僕にできること』

徳島県上勝町立上勝中学校 二年 酒井 聖輝

僕の通う上勝中学校は山道を少し登ったところにあります。僕の家から直線距離ではさほどに遠くありませんが、歩いてみると結構大変です。僕の家も学校とは違う山の上にあるからです。かじかの声を聞き、勝浦川の真横を見ながら土手の上を通る通学路が僕は大好きです。しかし、台風や大雨の時は風景が一変します。文字通りの真つ茶色の濁流が曲がりくねった土手にぶつかり、「ゴーツ」、「ゴーツ」と音を響かせて真つ白な波を立てながら、想像を絶する勢いで流れていきます。昨日までの「清流」がうそのような「牙を持つ」のです。それと同時に、学校の登り口の山壁からは水が吹き出てきます。一方所ではなく、普段水など流れていない場所からも何箇所も水が出てくるのです。通学路には「地すべり危険地域」の看板も立っているので気になって調べてみました。

平成十三年に「土砂災害防止法」が施行されたことは以前から知っていましたが、県の資料を調査して、僕の家のある「横峰地区」も学校のある「東戸越地区」も「急傾斜地の崩壊」や「土石流」による土砂災害の「特別警戒区域」に当てはまることが分かりました。特に僕の家のある川が流れる「木屋屋南谷」は昨年の三月に指定されたとのことでした。昨年土砂災害防止の作文を書いたのに、本当に身近な谷が「警戒区域」に指定されたことを知らなかったことに驚くと同時に深く反省をしました。

僕は毎日、ほとんど家か学校で過ごすことが多く、通学路も自分の足で通っています。つまり、生活のほとんどを「土砂災害特別警戒区域」で過ごしていることになりました。「土砂災害」は僕にとって決して他人事ではなく海岸線の地域の方々が「東南海地震と津波」に警戒されているように、本当に身近な起こる可能性がある「自然災害」なのです。

もちろん、国や県でも土砂災害防止のために多くの事業に取り組んでいます。「砂防ダム」や「危険箇所ネット補強」などは本当にありがたいものです。僕も雨の日の通学途中、小さな岩石の落下をネットが防いでくれていたのを見た事が何度もあります。また、看板を設置したり、大雨の時などはパトロールをしてくれたり、安全のために一生懸命僕たちを守ってくれています。

しかし、僕たちにもできることはあるはずですが、昨年、上勝町では「全国棚田サミット」が開催され、僕たちも案内やお世話のボランティアをしました。その時「棚田の役割」について学ぶ機会がありました。すばらしい景観としての「棚田」しか知らなかった僕は「棚田が洪水を防ぐ自然のダム」になっていることを初めて知りました。そして、棚田を作る「石垣の大切さ」も学習しました。また、毎年「森林ふれあい学習」で「間伐」や「植林」などを体験するのですが、昨年講師の先生から広葉樹林のフカフカの落ち葉が、スポンジのように天然の水の貯水池となり、土石流や土の流出を防いでいることなども教えていただきました。

中学生の僕は、大規模な土木工事などはできません。しかし、過疎化が進み、後継者不足のため少なくなっている「棚田」や「石垣」「広葉樹林」を守ることはできません。今すぐに土砂災害防止の行動をとることは難しくても、上勝町の「これから」を守ることは僕たちの責任だと思えます。自然の持つ力を大切にすることで、上手に土砂災害を防ぐことはこれからの僕たちの大きな課題の一つだと思います。

先日、近所の石垣積みを手伝いました。自然と上手に付き合うための昔からの知恵を教えてくださいたいように本当にうれしくなりました。これからは僕は「僕にできること」を見つけて土砂災害防止に取り組んでいきたいと考えています。